

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520214

研究課題名(和文) 東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究

研究課題名(英文) New study to clarify the literature of the feudal lord in the Tohoku district and the relations with a song pillow, the famous place in the geographical book

研究代表者

錦 仁(Nishiki, Hitoshi)

新潟大学・人文社会・教育科学系・フェロー

研究者番号：00125733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：これまで和歌は、中央に住む貴族・僧侶・武士の文学として研究されてきた。また、地誌は地理学や民俗学の資料と見なされてきた。この研究では、地誌の中に大量に記載されている和歌に関する記事を分析した。そして、東北地方の藩主や藩士の和歌に対する思想を明らかにした。新しい観点と方法を導入することによって、これまでの和歌研究の常識をくつがえした。

研究成果の概要(英文)：The 31-syllable Japanese poem has been studied as literature of a noble, a priest, the samurai who lived in the center until now. In addition, the geographical book has been considered to be geography and a folkloric document. In this study, I analyzed the article about a 31-syllable Japanese poem listed in a geographical book in large quantities. And I clarified the thought for the 31-syllable Japanese poem of a feudal lord and the clansman of the Tohoku district.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：和歌 歌枕・名所 地誌 藩主の文学活動 領内巡覧記 領内名所和歌集

1. 研究開始当初の背景

和歌の研究はどうあればよいのか。誰しも自明のように思ってきたが、そこに固定観念が貼り付いている。すなわち、これまでの和歌研究は、京都・奈良・鎌倉・江戸に住む一部の貴族・僧侶・武士の創作した作品を対象として行われてきた。中央を範囲とする作者論・作品論・時代論であった。この固定観念に地域・地方が見事に外されており、これまで疑問視されないうえに、和歌は中央だけのものではない。地方にも深く広く浸透して日本文化の基盤を形成している。この問題を解明し、日本文化の本当の姿を解明しなければならない。

2. 研究の目的

上記の問題認識にもとづき、東北地方諸藩の藩主たちの文学活動(主に和歌)に焦点をあて、その実態を解明する。また、藩主をとりまく文人藩士の詠んだ和歌や学習した歌論にもメスを入れて、各藩がどのような和歌思想をもって詠作に取り組んでいたかを総合的にあきらかにする。そりための具体的な資料としては、藩撰・私撰にかかわらず各藩において盛んに編纂された地誌をとりあげ、その中に歌枕がいかなる和歌思想のもとに記載されているかを分析する。

3. 研究の方法

藩主はしばしば領内を回って民情を視察をし、その道筋の出来事を和歌を交えた流麗な和文で「領内巡覧記」を書いた。また、藩主の巡覧を円滑にするための旅の案内書の意味ももつ地誌が作成された。それがダイジェスト化されて庶民の旅案内書に改訂されたものもあった。こうした藩撰・私撰の地誌が発展したが、地誌には、領内の名所・歌枕を詠んだ古歌が紹介され、また領内に独自の名所・歌枕が新しく設定されたりもした。地誌は、地方における和歌の実態。和歌は地方の各藩において、なにゆえに活用され、どのように定着していたかを教えてくれる。これまでの和歌研究は地誌の重要性に気づいてこなかった。本研究は各藩の「領内巡覧記」や地誌を収集し、和歌研究の重要資料として精緻に分析する。

4. 研究成果

予想した以上の成果が得られた。その具体的な例をあげると、仙台藩主・伊達吉村は領内に古今集の歌などに詠まれた地名(歌枕)を領内に特定し、そこを名所として顕彰した。そして、そうして設けられた名所を京都の堂上歌人に詠んでもらい、また仙台藩主である自分も詠み、かつ文人藩士の武士も詠んで、「領内名所和歌集」を編纂した。和歌を触媒にして中央と地方の連結・融合して一体化させる意図が見られる。和歌は中央と地方を分断するものではなく、日本という大きな結びつきのある国土・国家を

形成するものとして活用されていた。

こうした姿勢は、それより百年ほどあとの白河藩、秋田藩その他でも行われていた。白河藩主・松平定信は領内に公園を築造し、名所を設定し、和歌も漢詩も詠める名所にし、藩内外の藩主や歌人また著名な儒者に詠ませて、「領内名所和歌漢詩集」を編纂した。

同様の試みは、定信と知遇のあった秋田藩主・佐竹義和も試みている。彼の場合、中世期の領主・安東愛季のそれを踏襲し、それを土台にして和歌にも漢詩にも詠める領土を形成したことがわかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計18件)

平林香織、松代文化施設管理事務所(真田宝物館)所蔵「真田幸弘遺稿和歌集」上・下(文書番号四二三)、錦仁編『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』、査読なし、2014、124 - 144

志立正知、佐竹義和の阿仁比内巡覧と『道の記』藩主は何を見たのか、錦仁編『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』、査読なし、2014、92 - 99

志立正知、藩撰地誌における和歌関連資料の摂取 観念的空間の創出、錦仁編『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』、査読なし、2014、92 - 98

錦仁、酒田市立光丘文庫蔵『東路乃記・蜚陽紀行』、錦仁編『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』(私家版)、2014、106 - 123 頁

錦仁、酒田市立光丘文庫蔵『出羽・庄内名所旧跡伝来記 全』、錦仁編『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』(私家版)、2014、104 - 105 頁

錦仁、酒田市立光丘文庫蔵『所々名所旧跡并仏神御利生記』(奥書「享保二年十一月吉日述記」)、錦仁編『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』(私家版)、2014、100 - 103

錦仁、松井壽鶴齋藤『東国旅行談』執筆の動機・目的と「不思議」をめぐる、錦仁編『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』(私家版)、2014、62 - 74

錦仁、歌枕とは何か『白河古事考』から考える(付・序文)、錦仁編『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』(私家版)、2014、24 - 61

錦仁、仮名序を継承した東北の藩主たち
和歌と漢詩による国づくり、錦仁編『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』(私家版)、2014、20 - 23

錦仁、名所を読む庭園は存在したか 河原院と前栽歌合を中心に、白幡洋三郎編『作庭記』と日本の庭園』思文閣出版、査読有り、2014、179 - 212

錦仁、伝承資料集成 米沢市立米沢図書館蔵『屋代神社霊蹟記』の翻刻と考察 山形・新潟の弥三郎伝説、『人文科学研究』(新潟大学人文学部紀要)第132輯、査読なし、2013年3月、43 - 94

錦仁、第三章 古今集と平安和歌、小峯和明編『日本文学史 古代・中世編』ミネルヴァ書房、査読有り、2013、1 - 88

錦仁、〔基調講演〕国学者・堀秀成 節から知識人へ、『21世紀アジア学研究』(21世紀アジア学会)第11号、査読有り、2013年3月、137 - 148

錦仁、なんのための和歌か 『古今集』仮名序の思想、『日本語文藝研究』(台湾日本語文藝学会)第13号、査読有り、2013年2月、1-13

錦仁、「和歌者我国風俗也」 藩主の和歌思想、『説話文学研究』(説話文学会)第47号、査読有り、2012年7月、1 - 14

錦仁、題詠論・続稿 結題の詠み方をめぐって、錦仁編『中世詩歌の本質と連関』竹林舎、査読有り、2012、55 - 80

錦仁、藩主の巡覧記 仙台藩主と秋田藩主、錦仁・白幡洋三郎・原田信男編『都市歴史博覧 都市文化のなりたち・しくみ・たのしみ』笠間書院、査読有り、2011、212 - 238

錦仁、和歌はなぜ声なのか 『古今集』仮名序から、錦仁・阿部泰郎編『聖なる声 和歌にひそむ力』三弥井書店、査読有、2011、29 - 56

〔学会発表〕(計6件)

錦仁、仮名序と歌枕 和歌は旅する、公益財団法人 JR 東海生涯学習財団・京都市・東海旅客鉄道株式会社、2014年3月7日、よみうりホール

錦仁、秋田を旅した国学者・堀秀成、ルネッサンス・角館、2013年11月2日、秋田県仙北市・仙北市角館榊細工伝習館

錦仁、国学者・堀秀成 武士から知識人へ、21世紀アジア学会「“アジアの覚醒”と日本アジア理解のために、2013年1月26日、国土館大学

錦仁、なんのための和歌か 『古今集』仮名序の思想、台湾日本語文藝研究学会・第12回定例学会、2012年11月24日、台湾長栄大学

錦仁、和歌を詠む庭園 前栽歌合を中心に、共同研究「日本庭園のあの世とこの世 自然、芸術、宗教」(研究代表者白幡洋三郎)、2012年11月11日、国際日本文化研究センタ

一 錦仁、「和歌者我国風俗也」 藩主の和歌思想、説話文学会大会・シンポジウム「地域と説話 和歌・歴史・修験、2012年6月25日、新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」

〔図書〕(計5件)

錦仁、(私家版)『東北地方諸藩の和歌活動と歌枕・地誌との関係を解明する新研究 地誌と和歌・名所・歌枕』(編著)、2014、144頁

錦仁、三弥井書店、『宣教使 堀秀成 だれも書かなかった明治』(単著)、2014、411

錦仁、竹林舎、『中世詩歌の本質と連関』(編著)、2012、597

錦仁、笠間書院、『都市歴史博覧 都市文化のなりたち・しくみ・たのしみ』(白幡洋三郎・原田信男と共編)、2011、468

錦仁、三弥井書店、『聖なる声 和歌にひそむ力』(阿部泰郎と共編)、2011、333

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

錦 仁 (NISHIKI, Hitoshi)

新潟大学・人文社会・教育科学系 教授

研究者番号: 00125733

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

志立 正知 (SIDACHI, Masatomo)

秋田大学・教育学部・教授
研究者番号：70248722

平林 香織 (HIRABAYASHI, Kaori)
岩手医科大学・共通教育センター・教授
研究者番号：50300132